PCT

世界知的所有権機関 国際 事 務 局 特許協力条約に基づいて公開された国際出願



(51) 国際特許分類7 C10M 129/70 // C10N 40:30

A1

(11) 国際公開番号

WO00/68345

(43) 国際公開日

2000年11月16日(16.11.00)

(21) 国際出顧番号

PCT/JP00/02971

(22) 国際出願日

2000年5月10日(10.05.00)

(30) 優先権データ

特顏平11/128689

1999年5月10日(10.05.99)

(71) 出願人(米園を除くすべての指定国について)

新日本理化株式会社

(NEW JAPAN CHEMICAL CO., LTD.)[JP/JP]

〒612-8224 京都府京都市伏見区葭岛矢倉町13番地 Kyoto, (JP)

(72) 発明者:および

(75) 発明者/出顧人(米国についてのみ)

川原康行(KAWAHARA, Yasuyuki)[JP/JP]

〒611-0002 京都府宇治市木幡西浦49番地

リジェール柳田207号 Kyoto, (JP)

高橋孝司(TAKAHASHI, Kouji)[JP/JP]

〒612-8012 京都府京都市伏見区桃山町遠山103番地22号

Kyoto, (JP)

富澤廣隆(TOMIZAWA, Hirotaka)[JP/JP]

〒359-0041 埼玉県所沢市中新井5丁目29番12号 Saitama, (JP)

(74) 代理人

三枝英二, 外(SAEGUSA, Eiji et al.)

〒541-0045 大阪府大阪市中央区道修町1-7-1

北浜TNKビル Osaka, (JP)

(81) 指定国 AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, CA, CH, CN, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EE, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, IP, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, NO, NZ, PL, PT, RO, RU, SD, SE, SG, SI, SK, SL, TJ, TM, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VN, YU, ZA, ZW, 欧州特許 (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE), OAPI特許 (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG), ARIPO特許 (GH, GM, KE, LS, MW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZW), ユーラシア特許 (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM)

添付公開書類

国際調查報告書

(54)Title: LUBRICATING OIL FOR REFRIGERATOR, HYDRAULIC FLUID COMPOSITION FOR REFRIGERATOR AND METHOD FOR LUBRICATION OF REFRIGERATOR

(54)発明の名称 冷凍機用潤滑油、冷凍機用作動流体組成物及び冷凍機の潤滑方法

(57) Abstract

A lubricating oil for a refrigerator, characterized as comprising (a) at least one ester represented by general formula (1) wherein R¹ represents a C₁ to C₁₈ linear alkyl or a C₃ to C₁₈ branched alkyl, R² represents H, a C₁ to C₁₈ linear alkyl or a C₃ to C₁₈ branched alkyl, with the proviso that the total number of carbons contained in the alkyls represented by R¹ and R² is 2 to 18 and that when R² is H, R¹ represents a branched alkyl, and R³ represents a C₁ to C₂₀ linear alkyl, a C₃ to C₂₀ branched alkyl or a C₃ to C₁₀ cycloalkyl, and optionally (b) at least one compound selected from the group consisting of an aliphatic polyol ester, a phthalic acid ester, an aliphatic dicarboxylic acid ester, a polyvinyl ether, a hydrocarbon oil and a polyalkylene glycol; a method for lubricating a refrigerator using the lubricating oil; and a hydraulic fluid composition comprising (I) the component (a) or the components (a) and (II) a coolant.

FP04 - 0241-

0411.09

SEARCH REPORT

本発明は、(a)一般式(1)

$$R^{1}$$
— CH - C — OR^{3} (1)
 R^{2}

[式中、 R^1 は C_1-C_1 8直鎖状アルキル又は C_3-C_1 8の分岐鎖状アルキルを表し、 R^2 はH、 C_1-C_1 8の直鎖状アルキル又は C_3-C_1 8の分岐鎖状アルキルを表す。但し、 R^1 で表されるアルキルの炭素数と R^2 で表されるアルキルの炭素数との合計は $2\sim1$ 8である。 R^2 がHのとき、 R^1 は分岐鎖状アルキルを表す。 R^3 は C_1-C_2 0の直鎖状アルキル、 C_3-C_2 0の分岐鎖状アルキル又は C_3-C_1 0のシクロアルキルを表す。]

で表されるエステルの少なくとも1種を、必要に応じて(b)脂肪酸ポリオールエステル、フタル酸エステル、脂環族ジカルボン酸エステル、ポリビニルエーテル、炭化水素油及びポリアルキレングリコールからなる群から選択される少なくとも1種と組み合わせて、含有する冷凍機用の潤滑油、該潤滑油を用いた冷凍機の潤滑方法、(I)上記成分(a)又は成分(a)及び(b)と(II)冷媒とを含有する冷凍機用作動流体組成物を提供する。

```
PCTに基づいて公開される国際出願のパンフレット第一頁に掲載されたPCT加盟国を同定するために使用されるコード(参考情報)
        アラブ甘 長 歴 で スープーダ
アンティグア・バーブーダ
アルバニア
オーストリア
オーストリア
オーストラリア
アゼルバイジャン
ポズニア・ヘルツェゴビナ
                                                                                            カザンスタン
ヤントルシュカ
リヒ・テランカ
リリア・ファ
リンペリア
リンペリト
リトアニア
リムヤヤンブルグ
                                                                                      XCIKRSTUVACDGK
  AĞ
AL
AM
                                                                                                                                                 スーダン
スウェーデン
シンガポール
  AZ
BA
  バルバドス
         ベルギー
ブルギナ・ファソ
ブルガリア
                                                                                                              ーゴスラヴィア
          中央アフリカ
                                                 IDIL
         スイスコートジポアールカメルーン
                                                                                                                                                メロック
ウズベキスタン
ヴェトナム
ユーゴースラヴィア
ボアフリカ共和国
ジンパブエ
         中国
コスタ・リカ
         コスタ・リ
キュース
キプロス
チェッコ
ドイツ
デンマーク
```

WO 00/68345 PCT/JP00/02971

1

明細膏

冷凍機用潤滑油、冷凍機用作動流体組成物及び冷凍機の潤滑方法

5

技術分野

本発明は、カーエアコン、冷凍冷蔵庫、ルームエアコン或いは産業用大型冷凍 機等の圧縮機の潤滑油に関するものであり、加水分解安定性に優れた分岐鎖状カ ルボン酸モノアルキルエステルを含有する、低粘度の冷凍機用潤滑油を提供する 10 ものである。

背景技術 ·

エンジン油、ギヤ油、油圧作動油、タービン油などの通常の潤滑油に要求され 5 る性質とは異なり、冷凍機の圧縮機に用いられる潤滑油には、冷凍機が冷媒を使用していることに起因して、かなり異なる特殊な性能が必要とされる。特に、冷 凍機用潤滑油としてエステルを使用する場合、潤滑性に加えて、冷媒との相溶性、 電気絶縁性、更に、高い加水分解安定性等が要求される。

従来、冷凍機の冷媒としては、分子中に塩素原子を含有するフロン、例えばC FC-11(トリクロロモノフルオロメタン)、CFC-12(ジクロロジフル オロメタン)、HCFC-22(モノクロロジフルオロメタン)等のフロンが使用されてきた。ところが、これらの揮発物がオゾン層を破壊し、又、地球温暖化の原因となり、人体や地球環境に様々な悪影響を及ぼすことが徐々に判明するに伴い、CFCは既に製造禁止となり、HCFCは段階的に数量を減らしていくことが国際的な取り決めとなっている。そこで、近年、塩素原子を含有せず、オゾ

ン層を破壊することのない冷媒として、炭化水素、二酸化炭素、アンモニア等の 自然系冷媒及びHFC-134aを代表とする代替フロンに切りかえられつつあ る。

従来の塩素含有フロンは、鉱油系潤滑油と相溶性が良好であるため、冷凍機用潤滑油として鉱油系潤滑油が用いられていた。冷凍機用潤滑油は、圧縮機から吐出される冷媒と共に冷凍機のシステム内を循環するが、その際に、塩素含有フロンと鉱油系潤滑油との相溶性が良好であるため、冷媒と潤滑油の分離が生じることはなかった。

しかし、HFC-134a等の代替フロン(ハイドロフルオロカーボン)は、 10 塩素含有フロンに比べて分子極性がより高いため、鉱油系潤滑油との相溶性が不 良である。冷媒と潤滑油の相溶性が悪い場合、運転中に冷媒と潤滑油の分離が起 こり、圧縮機の潤滑不足から焼き付きを引き起こす原因となる。

そこで、代替フロン用潤滑油として、相溶性の良好なポリグリコール類(ポリアルキレングリコール、ポリエーテル)又はエステル類が使用されるようになってきた。しかし、ポリグリコール類は電気絶縁性に問題があり、カーエアコン氏縮機には使用可能であるが、モーター内蔵型の密閉型冷凍圧縮機には使用不能である。

一方、エステル類は電気絶縁性が高いのでいずれの用途にも使用可能であり、 特にネオペンチルポリオールと一価のカルボン酸のエステル(ポリオールエステ 20 ル)が実用に供されている。

しかし、これらのポリオールエステルであっても直鎖状カルボン酸のエステル は加水分解安定性に難点があり、加水分解により分解するという欠点があるため、 分岐鎖状カルボン酸と直鎖状カルボン酸の混合酸のポリオールエステル又は分岐 鎖状カルボン酸のポリオールエステルが用いられている。それでも加水分解安定 性は充分でなく、冷凍機の組立や補修の際には空気や水分の管理が必要とされる など煩雑な操作が要求されている。そのため、更に加水分解安定性に優れたエステルの開発が切望されている。特に、冷凍機用潤滑油に必要とされる、冷媒との相溶性及び電気絶縁性に優れ、更に、高い加水分解安定性を有するエステルの開発が切望されている。

5 一方、従来からヤシ油脂肪酸メチル、ラウリン酸2-エチルヘキシル、パルミチン酸2-エチルヘキシル、ステアリン酸イソプチル等の脂肪族カルボン酸モノエステルは、金属加工油等の基油として用いられている。しかしながら、これらの脂肪族直鎖状カルボン酸モノエステルは加水分解安定性に乏しく、代替フロンとの相溶性も悪く、冷凍機用潤滑油としては適用できなかった。

10 更に、最近では地球温暖化の問題から、温暖化の主要因となっている二酸化炭素の排出量を削減するため、各種冷凍機においても省エネルギー化に対応した高効率機器の開発が進められている。そのような機器ではエネルギーロスを低減するために、使用する部品の材料面からの改善とともに、運転時の摩擦ロスを低減するため潤滑油の低粘度化が必要となってきている。そのような低粘度油として15 は、40℃での動粘度が32mm²/s(VG32)、15mm²/s(VG15)、10mm²/s(VG10)、更にはそれ以下の低粘度特性を有するものまでが必要とされており、低粘度で加水分解安定性に優れたエステルの要望が高まっている。

発明の開示

20

このような状況の中で、本発明の目的は、上記従来の問題点を解消する冷凍機 用潤滑油を提供することにある。特に本発明の目的は、加水分解安定性に優れか つ低粘度の冷凍機用潤滑油を提供することにある。

25 本発明者らは、上記課題を解決すべく鋭意検討の結果、特定の脂肪族飽和分岐

4

鎖状カルボン酸と特定の一価アルコールとをエステル化して得られる脂肪族分岐 鎖状カルボン酸モノアルキルエステルが、加水分解安定性、電気絶縁性及び冷媒 相溶性に優れていることを見い出すと共に、冷凍機用潤滑油の低粘度化を図れる ことをも見いだし、かかる知見に基づいて本発明を完成するに至った。

5 すなわち、本発明の冷凍機用潤滑油は、一般式(1)

$$R^{1}$$
—CH-C—OR³ (1)

- 15 [式中、R¹は炭素数 $1\sim1$ 8 の直鎖状アルキル基又は炭素数 $3\sim1$ 8 の分岐鎖状のアルキル基を表し、R²は水素原子、炭素数 $1\sim1$ 8 の直鎖状アルキル基又は炭素数 $3\sim1$ 8 の分岐鎖状アルキル基を表す。但し、R¹で表されるアルキル基の炭素数とR²で表されるアルキル基の炭素数との合計は $2\sim1$ 8 であり、また、R²が水素原子のとき、R¹は分岐鎖状のアルキル基を表す。R³は炭素数
- 20 1~20の直鎖状アルキル基、炭素数3~20の分岐鎖状アルキル基又は炭素数3~10のシクロアルキル基を表す。]

で表される脂肪族飽和分岐鎖状カルボン酸モノアルキルエステルの少なくとも 1 種を含有するものである。

25 更に、上記一般式(1)で表される脂肪族飽和分岐鎖状カルボン酸モノアルキ

ルエステルの少なくとも1種(I)は、従来の冷凍機用潤滑油(II)、例えば、脂肪酸ポリオールエステル、フタル酸エステル、脂環族ジカルボン酸エステル、ポリビニルエーテル、炭化水素油、ポリアルキレングリコール等と併用した場合も優れた効果を奏し、例えば、成分(I)と(II)との併用系の潤滑油において加水分解安定性が良好である点、成分(I)と(II)との併用系の潤滑油において低粘度化が可能である点等において優れていることが見出された。

従って、本発明は、a)上記一般式(1)で表される脂肪族飽和分岐鎖状カルボン酸モノアルキルエステルの少なくとも1種と

- b)i)脂肪酸ポリオールエステル、
- 10 ii)フタル酸エステル、
 - iii)脂環族ジカルボン酸エステル、
 - iv)ポリビニルエーテル、
 - v)炭化水素油及び
 - vi)ポリアルキレングリコール
- 15 からなる群から選択される少なくとも1種

との混合物であって、成分a): 成分b)の比が重量比で0.5:99.5~99.5:0.5 である混合物を含有することを特徴とする冷凍機用潤滑油を提供するものでもある。

- 20 また、本発明の冷凍機用潤滑油、特にその成分である上記一般式(1)で表される脂肪族飽和分岐鎖状カルボン酸モノアルキルエステルの少なくとも1種は、冷媒、特にハイドロフルオロカーボン系冷媒との相溶性が良好であり、該エステルの少なくとも1種と、冷媒、特にハイドロフルオロカーボン系冷媒との混合物は、冷凍機の作動流体としても機能することが見出された。
- 25 よって、本発明は、(I)上記本発明の上記一般式(1)で表される脂肪族飽和分

岐鎖状カルボン酸モノアルキルエステルの少なくとも1種と、(II)冷媒(特にハイドロフルオロカーボン系冷媒の少なくとも1種)とを含有する冷凍機用作動流体組成物を提供するものでもある。

5 また、本発明は、

10

25

- (I) a)上記一般式(1)で表される脂肪族飽和分岐鎖状カルボン酸モノアルキルエステルの少なくとも1種、及び
 - b)i)脂肪酸ポリオールエステル、ii)フタル酸エステル、iii)脂環族ジカルボン酸エステル、iv)ポリビニルエーテル及び v)炭化水素油及びvi)ポリアルキレングリコールの群から選択される少なくとも1種、並びに
- (II)冷媒 (特にハイドロフルオロカーボン系冷媒の少なくとも1種) を含有する冷凍機用作動流体組成物を提供するものでもある。

更に、本発明は、上記本発明の冷凍機用潤滑油を用いることを特徴とする冷凍 15 機の潤滑方法、特に、少なくとも1種のハイドロフルオロカーボン系冷媒を用い る冷凍機の潤滑方法を提供するものでもある。

更に、本発明は、冷凍機潤滑油としての、冷媒(特に、少なくとも1種のハイ ドロフルオロカーボン系冷媒)を用いる冷凍機用潤滑油としての、上記一般式

- (1) で表される脂肪族飽和分岐鎖状カルボン酸モノアルキルエステルの使用を 20 提供するものでもある。
 - 同様に、本発明は、冷凍機用潤滑油としての、冷媒(特に、少なくとも1種の ハイドロフルオロカーボン系冷媒)を用いる冷凍機用の潤滑油としての、
 - a)一般式(1)で表される脂肪族飽和分岐鎖状カルボン酸モノアルキルエステルの少なくとも1種、及び

7

b)i)脂肪酸ポリオールエステル、ii)フタル酸エステル、iii)脂環族ジカルボン酸エステル、iv)ポリピニルエーテル、v)炭化水素油及びvi)ポリアルキレングリコールからなる群から選択される少なくとも1種を含む混合物の使用を提供する。

5

図面の簡単な説明

図1は、本発明で用いる冷凍機の模式図である。

10

発明の詳細な記載

以下、本発明の冷凍機用潤滑油(以下、「冷凍機油」という。)の成分について、詳述する。

15

一般式(1)で表される脂肪族

飽和分岐鎖状カルボン酸モノアルキルエステル

本発明の脂肪族飽和分岐鎖状カルボン酸モノアルキルエステルは、前記一般式(1)で表される。

20 一般式(1)において、R¹で表されるアルキル基の炭素数とR²で表される アルキル基の炭素数との合計は2~13であるのが好ましく、その場合、R³は、 炭素数3~12の直鎖状又は分岐鎖状アルキル基であるのが好ましい。

また、一般式 (1) において、 R^1 及び R^2 が、炭素数 $1\sim 1$ 7の直鎖状アルキル基又は炭素数 $3\sim 1$ 8の分岐鎖状アルキル基であるエステルも好ましい。

25 特に、R1及びR2の一方が炭素数1~5の直鎖状アルキル基又は炭素数3~

PCT/JP00/02971 WO 00/68345

8

5の分岐鎖状アルキル基であり、R¹及びR²の他方が炭素数1~17(特に1~9)の直鎖状アルキル基又は炭素数3~17(特に3~9)の分岐鎖状アルキル基である一般式(1)で表されるエステルも好ましい。

本発明に係る一般式(1)で表される脂肪族飽和分岐鎖状カルボン酸モノアル 5 キルエステル(以下、「本エステル」という。)は、各種の方法により製造する ことができ、例えば、対応するカルボン酸と対応するアルコールとのエステル化 (脱水縮合反応)、対応するカルボン酸のハライドと対応するアルコールとの脱 ハロゲン化水素反応、エステル交換反応等により製造できる。

又、本エステルは、相当する脂肪族不飽和分岐鎖状カルボン酸のアルキルエス 10 テル、脂肪族飽和分岐鎖状カルボン酸のアルケニルエステル又は脂肪族不飽和分 岐鎖状カルボン酸のアルキルエステル若しくはアルケニルエステルを水添するこ とによっても製造することができる。

一般的には、本エステルは、対応するカルボン酸と対応するアルコールとのエステル化により製造される。より詳しくは、一般式(2)

15

$$R^{1}$$
—CH-C—OH (2)

20

[式中、R¹及びR²は、前記に同じである。] で表される脂肪族飽和分岐鎖状カルボン酸と一般式(3) 9

 $R^3 - OH$

(3)

[式中、R³は前記に同じである。]

で表される1価のアルコールとを、公知の方法により、好ましくは窒素等の不活 性化ガス雰囲気下において、エステル化触媒の存在下又は無触媒下で加熱撹拌し ながらエステル化することにより調製される。

本発明において、R¹及びR²は、一般式(2)で表される脂肪族飽和分岐鎖 状カルボン酸由来の基であり、R¹は、炭素数1~18の直鎖状アルキル基又は 炭素数3~18の分岐鎖状のアルキル基を表し、R²は、水素原子、炭素数1~ 1018の直鎖状アルキル基又は炭素数3~18の分岐鎖状アルキル基を表す。但し、 R¹で表されるアルキル基の炭素数及びR²で表されるアルキル基の炭素数の合 計は、2~18である。

一般式(2)で表される脂肪族飽和分岐鎖状カルボン酸

- 15 一般式(2)で表される脂肪族飽和分岐鎖状カルボン酸としては、イソブタン酸(2-メチルプロパン酸)、2-メチルブタン酸、3-メチルブタン酸、イソヘキサン酸、2-エチルブタン酸、2,3-ジメチルプタン酸、2-メチルペンタン酸、イソヘプタン酸、2-メチルヘキサン酸、2-エチルペンタン酸、2,4-ジメチルペンタン酸、3-メチルヘキサン酸、5-メチルヘキサン酸、イソカタン酸、2-エチルヘキサン酸、2-メチルヘプタン酸、2-プロピルペンタン酸、イソノナン酸、2-メチルオクタン酸、2-エチルヘプタン酸、3.5,5-トリメチルヘキサン酸、イソデカン酸、2-エチルオクタン酸、2-メチルノナン酸、イソウンデカン酸、イソデカン酸、2-エチルオクタン酸、2-メチルノナン酸、イソウンデカン酸、イソドデカン酸、イソトリデカン酸、イソテトラデカン酸、2-ペンチルノナン酸、イソペンタデカン酸、イソヘキサデカン酸、
- 25 2-ヘキシルデカン酸、イソヘプタデカン酸、イソオクタデカン酸、イソノナデ

カン酸、イソイコサン酸が例示される。

好ましくは、炭素数 4~15の分岐鎖状カルボン酸であるイソブタン酸、2~メチルブタン酸、3~メチルブタン酸、イソヘキサン酸、2~エチルブタン酸、2・3~ジメチルブタン酸、2~メチルペンタン酸、イソヘプタン酸、2~メチルヘキサン酸、2~エチルペンタン酸、2・4~ジメチルペンタン酸、3~メチルヘキサン酸、5~メチルヘキサン酸、イソオクタン酸、2~エチルヘキサン酸、2~メチルヘキサン酸、2~メチルカクタン酸、2~エチルヘプタン酸、3・5・5~トリメチルヘキサン酸、イソデカン酸、2~エチルカクタン酸、2~エチルカクン酸、2~メチルノナン酸、イソウンデカン酸、イソデカン酸、2~エチルオクタン酸、2~メチルノナン酸、イソウンデカン酸、イソデカン酸、イソトリデカン酸、イソテトラデカン酸、2~ペンチルノナン酸、イソペンタデカン酸が推奨される。

更に、一般式(2)で表される脂肪族飽和分岐鎖状カルボン酸として、セカノイックC8酸(エクソン化学株式会社製品)、セカノイックC10酸(エクソン化学株式会社製品)、セカノイックC13酸(エクソン化学株式会社製品)等の 脂肪酸の混合物を使用してもよい。

一般式(2)で表される脂肪族飽和分岐鎖状カルボン酸は、上記カルボン酸を単独で用いることが可能であり、又、2種以上の酸を用いることも可能である。なかでも、より大きな加水分解安定性及び冷媒相溶性を併せ持ったエステルを得るためには、カルボキシル基のα位に2つのアルキル基を有する脂肪族飽和分し、対域状カルボン酸、すなわち、R1及びR2が、炭素数1~17の直鎖状アルキル基若しくは炭素数3~17の分岐鎖状アルキル基である分岐鎖状カルボン酸を用いることが望ましい。

特に、R¹及びR²の一方が、炭素数1~5の直鎖状アルキル基又は炭素数3~5の分岐鎖状アルキル基であり、R¹及びR²の他方が炭素数1~17、特に 1~9の直鎖状アルキル基若しくは炭素数3~17、特に3~9の分岐鎖状アル

キル基である分岐鎖状カルボン酸を用いることがより望ましい。

具体的には、イソブタン酸、2ーメチルブタン酸、2ーエチルブタン酸、2、3ージメチルブタン酸、2ーメチルペンタン酸、2ーメチルヘキサン酸、2ーエチルペンタン酸、2、4ージメチルペンタン酸、及び2ーエチルヘキサン酸、2ーメチルヘプタン酸、2ープロピルペンタン酸、2ーエチルオクタン酸、2ーメチルノナン酸、2ーペンチルノナン酸等がより好ましく、金属に対する腐食性が小さい点から、特に、2ーエチルヘキサン酸が推奨される。

一般式(3)で表される1価アルコール

10 一方、本発明においてR³は、一般式(3)で表される1価アルコール由来の基であり、炭素数1~20(特に3~12)の直鎖状のアルキル基、炭素数3~20(特に3~12)の分岐鎖状のアルキル基、又は炭素数3~10(特に6~8)のシクロアルキル基が例示される。

具体的なR3としては、イソプロピル基、イソブチル基、secーブチル基、

- 15 tertーブチル基、イソペンチル基、イソヘキシル基、イソヘプチル基、2-メチルヘキシル基、2-エチルヘキシル基、1-メチルヘプチル基、2-メチルヘプチル基、イソオクチル基、イソノニル基、3,5,5-トリメチルヘキシル基、2,6-ジメチル-4-ヘプチル基、イソデシル基、イソウンデシル基、イソドデシル基、イソトリデシル基、イソテトラデシル基、イソペンタデシル基、
- 20 イソヘキサデシル基、イソヘプタデシル基、イソオクタデシル基、イソノナデシル基、イソイコシル基、メチル基、エチル基、nープロピル基、nープチル基、nーペンチル基、nーヘキシル基、nーヘプチル基、nーオクチル基、nーノニル基、nーデシル基、nーウンデシル基、nードデシル基、nートリデシル基、nーテトラデシル基、nーペンタデシル基、nーヘキサデシル基、nーヘプタデシル基、nーオクタデシル基、nーノナデシル基、nーイコシル基、シクロヘキ

シル基、メチルシクロヘキシル基、ジメチルシクロヘキシル基等が例示される。特に好ましくは、R®は、炭素数3~12の直鎖状又は分岐状の(特に分岐状の)アルキル基又は炭素数6~8のシクロアルキル基(特に、炭素数3~12の直鎖状又は分岐鎖状アルキル基)、例えば、イソブチル基、secーブチル基、シクロヘキシル基、nーヘプチル基、イソヘプチル基、2ーエチルヘキシル基、1ーメチルヘプチル基、イソオクチル基、イソノニル基、3,5,5ートリメチルヘキシル基、2,6ージメチルー4ーヘプチル基、イソデシル基、イソウンデシル基が推奨される。

一般式(3)で表される1価アルコールとしては、炭素数1~20の直鎖状ア 10 ルコール、炭素数3~20の分岐鎖状アルコール、及び炭素数3~10のシクロ アルコールが例示される。

具体的な直鎖状アルコールとしては、メタノール、エタノール、nープロパノール、nーブタノール、nーペンタノール、nーヘキサノール、nーヘプタノール、nーオクタノール、nーナノール、nーテカノール、nーウンデカノール、nードデカノール、nートリデカノール、nーテトラデカノール、nーペンタデカノール、nーヘキサデカノール、nーオクタデカノール、nーノナデカノール、nーイコサノールが例示される。

具体的な分岐鎖状アルコールとしては、イソプロパノール、イソブタノール、sec-ブタノール、tert-ブタノール、イソペンタノール、イソヘキサノ つル、イソヘプタノール、2-メチルヘキサノール、2-エチルヘキサノール、1-メチルヘプタノール、2-メチルヘプタノール、イソオクタノール、イソノナノール、3,5,5-トリメチルヘキサノール、2,6-ジメチルー4-ヘプタノール、イソデカノール、イソデカノール、イソトリテカノール、イソテトラデカノール、イソペンタデカノール、イソヘキサデカノテカノール、イソオクタデカノール、イソノナデカノール、イソイコサノール等が例示 25 ール、イソオクタデカノール、イソノナデカノール、イソイコサノール等が例示

される。

又、具体的なシクロアルコールとしては、シクロヘキサノール、メチルシクロ ヘキサノール、ジメチルシクロヘキサノール等が例示される。

上記アルコールの中でも、より優れた潤滑性を有する点で直鎖状アルコール若しくはシクロアルコールが望ましく、特に炭素数3~12の直鎖状アルコール及び炭素数6~8のシクロアルコール、例えば、n-プロパノール、n-ブタノール、n-ペンタノール、n-ヘキサノール、n-ヘプタノール、n-オクタノール、n-ノナノール、n-デカノール、n-ウンデカノール、n-ドデカノール、シクロヘキサノールが好ましい。

10 一方、より優れた冷媒相溶性若しくは加水分解安定性を有する点で分岐鎖状ア ルコールが好ましく、特に炭素数3~12の分岐鎖状アルコール、例えば、イソ プロパノール、イソプタノール、secーブタノール、イソヘプタノール、2 ー エチルヘキサノール、1ーメチルヘプタノール、イソオクタノール、イソノナノール、3,5,5ートリメチルヘキサノール、2,6ージメチルー4ーヘプタノ 15 ール、イソデカノール、イソウンデカノールが好ましい。

更に、潤滑性、冷媒相溶性、加水分解安定性、電気絶縁性等の冷凍機油に要求される物性のバランスを考慮すると、一般式(3)で表されるアルコールとしては、炭素数3~12の直鎖状又は分岐状の(特に分岐状の)アルコール又は炭素数6~8のシクロアルコール、例えば、イソプロパノール、イソブタノール、s

一般式(3)で表されるアルコールは、各々を単独でエステル化反応に供する 25 ことが可能であり、又、2種以上のアルコールを混合して用いることも可能であ る。

アルコールを混合して用いる場合の組み合わせとしては、具体的には、イソブ タノール/2-エチルヘキサノール、イソプタノール/n-オクタノール、イソ ブタノール/イソナノノール、イソブタノール/3,5,5-トリメチルヘキサ **ノール、イソブタノール/イソデカノール、イソプタノール/n-デカノール、** イソプタノール/n-ウンデカノール、イソプタノール/イソウンデカノール、 イソプタノール/n-ドデカノール、2-エチルヘキサノール/n-オクタノー ル、2-エチルヘキサノール/イソナノノール、2-エチルヘキサノール/3。 5,5-トリメチルヘキサノール、2-エチルヘキサノール/イソデカノール、 10 2-エチルヘキサノール/n-デカノール、2-エチルヘキサノール/n-ウン デカノール、2-エチルヘキサノール/イソウンデカノール、2-エチルヘキサ **ノール/n-ドデカノール、n-オクタノール/イソナノノール、n-オクタノ** ール/3,5,5-トリメチルヘキサノール、n -オクタノール/イソデカノー ル、n-オクタノール/n-デカノール、n-オクタノール/n-ウンデカノー 15 ル、n-オクタノール/イソウンデカノール、n-オクタノール/n-ドデカノ ール、イソナノノール/3,5,5-トリメチルヘキサノール、イソノナノール **/イソデカノール、イソノナノール/n-デカノール、イソノナノール/n-ウ** ンデカノール、イソノナノール/イソウンデカノール、イソノナノール/n-ド デカノール、3,5,5ートリメチルヘキサノール/イソデカノール、3,5, 20 5-トリメチルヘキサノール/n-デカノール、3,5,5-トリメチルヘキサ ノール/n-ウンデカノール、3,5,5-トリメチルヘキサノール/イソウン デカノール、3.5,5ートリメチルヘキサノール/nードデカノールなどが好

ましい。 2種以上のアルコール、特に2種のアルコールを混合して用いる場合、そのモ 25 ル比率として95:5~5:95、好ましくは90:10~10:90、更に好 ましくは70:30~30:70が挙げられる。

特に、冷媒相溶性、加水分解安定性及び潤滑性のバランスを重視する場合は、 直鎖状のアルコールと分岐鎖状のアルコールとを併用することがより好ましい。 直鎖状のアルコールと分岐鎖状のアルコールとを併用する場合、更に冷媒相溶

5 性及び加水分解安定性に優れる点で、炭素数12~20の直鎖状のアルコールの 含有量が全アルコール中の5~50モル%であることが推奨される。

<u>エステル化</u>

エステル化反応を行うに際し、各々の原料の使用量としては、例えば、一般式 10 (2)で表されるカルボン酸1当量に対して一般式(3)で表されるアルコール を1~1.5当量、好ましくは1.05当量~1.2当量程度用いる。

更に、一般式(2)で表されるカルボン酸又は一般式(3)で表されるアルコールの代わりに当該カルボン酸の低級アルコールエステルおよび/又は当該アルコールの酢酸エステル、プロピオン酸エステル等の一般式(3)で表されるアルコールの炭素数1~4の低級アルカン酸エステルを用いて、エステル交換反応により本エステルを得ることも可能である。

又、エステル化反応に用いる酸成分及びアルコール成分ともに、不純物をできるだけ含まないものを原料として用いることが好ましい。不純物としては、金属化合物、ヘテロ原子含有化合物(硫黄含有化合物、窒素含有化合物、リン含有化 合物など)、含酸素有機化合物(過酸化物、カルボニル化合物など)が挙げられる。

エステル化触媒としては、ルイス酸類、アルカリ金属類、スルホン酸類等が例示され、具体的には、ルイス酸として、アルミニウム誘導体、スズ誘導体、チタン誘導体が例示され、アルカリ金属類としてナトリウムアルコキシド、カリウム アルコキシド等が例示され、更に、スルホン酸類としてパラトルエンスルホン酸、

メタンスルホン酸、硫酸等が例示される。又、酸性イオン交換樹脂等も使用することができる。その中でも炭素数3~8のテトラアルキルチタネート、酸化チタン、炭素数1~4のナトリウムアルコキシド、水酸化ナトリウム、炭素数3~12の脂肪酸スズ、酸化スズが好ましい。その使用量は、例えば、一般式(2)で表されるカルボン酸及び一般式(3)で表されるアルコールの総重量に対して0.05重量%~1重量%程度である。

エステル化温度としては、100℃~230℃が例示され、通常、3時間~3 0時間で反応は完結する。

エステル化においては、反応により生成する水の留出を促進するために、ベン 10 ゼン、トルエン、キシレン、シクロヘキサンなどの水同伴剤を使用することが可能である。

又、エステル化反応時に原料、生成エステル及び有機溶媒(水同伴剤)の酸化 劣化により酸化物、過酸化物、カルボニル化合物などの含酸素有機化合物を生成 すると吸水性、加水分解安定性、電気絶縁性に悪影響を与えるため、系内を窒素 ガスなどの不活性ガス雰囲気下又は不活性ガス気流下で反応を行うことが望まし い。

エステル化反応終了後、過剰の原料を減圧下又は常圧下にて留去する。引き続き、慣用の精製方法、例えば、液液抽出、減圧蒸留、活性炭処理等の吸着精製等により、生成エステルを精製することができる。

20 得られるエステルには製造方法により各種の不純物が混在している場合がある。 そのような不純物としては酸性化合物、金属化合物(有機金属化合物、無機金属 化合物)、ヘテロ原子含有化合物(硫黄含有化合物、窒素含有化合物、リン含有 化合物など)、含酸素有機化合物(過酸化物、カルボニル化合物など)が挙げら れる。これらの不純物は、加水分解安定性、電気絶縁性、熱安定性の不良を招く 25 ほか、金属部分の腐食やスラッジの発生を引き起こす原因となる。 酸性化合物の除去方法としては、未反応原料酸の蒸留による分離、アルカリによる十分な中和処理と十分な水洗、若しくは酸除去効果のある吸着剤での精製処理等が挙げられる。金属化合物の除去方法としては、金属触媒に対しては、必要に応じて加水分解を施した後に濾過除去をすること、及び、更に金属除去効果のある吸着剤で精製処理をすることなどが挙げられる。また、中和処理時に用いたアルカリ金属に対しては、十分な水洗による除去、及び、更に金属除去効果のある吸着剤で精製処理をすることなどが挙げられる。ヘテロ原子化合物の除去方法としては、硫黄系、リン系の触媒に対し、アルカリによる十分な中和処理と水洗、及び、ヘテロ原子除去効果のある吸着剤での精製処理等が挙げられる。過酸化物、カルボニル化合物の除去方法としては、水素化ホウ素ナトリウム、水素化アルミニウムリチウムなどの金属水素化物による還元処理などが挙げられる。

精製時に用いられる具体的な吸着剤としては、天然若しくは合成の吸着剤が挙 げられ、具体的には、活性炭、活性アルミナ、シリカゲル、シリカアルミナ、活 性白土、ゼオライト、マグネシア、カルシア、珪藻土、ハイドロタルサイトのほ か、非スルホン酸系のイオン交換樹脂、合成ハイドロタルサイトなどの合成吸着 剤が例示される。使用量は、吸着剤の種類によっても異なるが、通常、エステル の理論収量に対し、0.01~5重量%、好ましくは、0.05~5重量%が推 奨される。

特に、室温~110℃の温度で、好ましくは室温~90℃の温度で、活性炭、 20 活性アルミナ、シリカゲル、活性白土、ゼオライト、ハイドロタルサイト、非ス ルホン酸系のイオン交換樹脂、合成ハイドロタルサイトの群から選択される1種 若しくは2種以上の吸着剤を用いて精製したエステルは、下記の(a)~(h)の物性 を有し、冷凍機用潤滑油として特に好適である。

(a)本エステルは、その全酸価が 0. 1 mgKOH/g以下、好ましくは 0. 0 5 mgK25 OH/g以下、更に好ましくは 0. 0 3 mgKOH/g以下であることが推奨される。全酸

- 価が0. 1 mgKOH/g以下であれば、良好な加水分解安定性が得られ易く、金属に対する腐食性がより小さくなる傾向が認められる。
- (b)本エステルにおいては、JIS-K-2272に定義される灰分又は硫酸灰分が、30ppm以下、好ましくは10ppm以下、更に好ましくは5ppm以下であることが推奨される。上記灰分又は硫酸灰分が30ppm以下であれば、良好な加水分解安定性、熱安定性が得られ易い。
 - (c)本エステルにおいては、その硫黄含量が50ppm以下、好ましくは30ppm以下、更に好ましくは10ppm以下であることが推奨される。硫黄含量が50ppm以下であれば、良好な加水分解安定性、熱安定性が得られ易い。
- 10 (d)本エステルにおいては、そのリン含量が50ppm以下、好ましくは30ppm以下、更に好ましくは10ppm以下であることが推奨される。リン含量が50ppm以下であれば、良好な加水分解安定性、熱安定性が得られ易い。
- (e)本エステルにおいては、その水酸基価が5mgKOH/g以下、好ましくは3mgKOH/g以下であることが推奨される。水酸基価が5mgKOH/g以下であれば、エステル の吸湿性が少なくなり、良好な加水分解安定性、電気絶縁性が得られやすい。
 - (f)本エステルにおいては、その過酸化物価が1.0 meq/kg以下、好ましくは0.5 meq/kg以下であることが推奨される。過酸化物価が1.0 meq/kg以下であれば、良好な熱安定性が得られ易い。
- (g)本エステルにおいては、そのカルボニル価が5.0以下、好ましくは3.0 20 以下、更に好ましくは1.0以下であることが推奨される。カルボニル価が5. 0以下であると、良好な熱安定性が得られ易い。
 - (h)本エステルにおいては、その色相がハーゼン色数で100以下、好ましくは50以下、更に好ましくは30以下であることが推奨される。色数が100以下であると、良好な熱安定性が得られ易い。

本エステル

上記方法で得られる本エステルとして具体的には、イソブタン酸イソプロピル、 イソブタン酸イソプチル、イソブタン酸(sec-ブチル)、イソブタン酸イソ ペンチル、イソブタン酸シクロヘキシル、イソブタン酸イソヘプチル、イソブタ **ン酸(2-エチルヘキシル)、イソブタン酸(1-メチルヘプチル)、イソブタ** ン酸イソオクチル、イソブタン酸イソノニル、イソブタン酸(3,5,5-トリ メチルヘキシル)、イソブタン酸(2.6-ジメチル-4-ペプチル)、イソブ タン酸イソデシル、イソブタン酸イソウンデシル、イソブタン酸(n-プロピ ル) 、イソプタン酸 (n-ブチル)、イソプタン酸 (n-ペンチル)、イソブタ 10 ン酸 (n-ヘキシル)、イソブタン酸 (n-ヘプチル)、イソブタン酸 (n-オー · クチル)、イソプタン酸(n-ノニル)、イソプタン酸(n-デシル)、イソプ タン酸 (n-ウンデシル)、イソブタン酸 (n-ドデシル)、2-メチルブタン 酸イソプロピル、2-メチルブタン酸イソブチル、2-メチルブタン酸(sec ープチル)、2-メチルブタン酸イソペンチル、2-メチルプタン酸シクロヘキ 15 シル、2-メチルブタン酸イソヘプチル、2-メチルブタン酸(2-エチルヘキ シル)、2-メチルプタン酸(1-メチルヘプチル)、2-メチルブタン酸イソ オクチル、2-メチルブタン酸イソノニル、2-メチルブタン酸(3,5,5-トリメチルヘキシル)、2-メチルプタン酸(2,6-ジメチル-4-ヘプチ ル)、2-メチルブタン酸イソデシル、2-メチルブタン酸イソウンデシル、2 20 -メチルブタン酸 (n-プロピル)、2-メチルブタン酸 (n-プチル)、2-メチルブタン酸 (n-ペンチル)、2-メチルブタン酸 (n-ヘキシル)、2-メチルブタン酸 (n-ヘプチル)、2-メチルプタン酸 (n-オクチル)、2-メチルブタン酸(n-ノニル)、2-メチルブタン酸(n-デシル)、2-メチ ルブタン酸(n-ウンデシル)、2-メチルブタン酸(n-ドデシル)、2-エ 25 チルプタン酸イソプロピル、2-エチルプタン酸イソプチル、2-エチルプタン

酸(sec-ブチル)、2-エチルブタン酸イソペンチル、2-エチルブタン酸 シクロヘキシル、2-エチルプタン酸イソヘプチル、2-エチルブタン酸(2-エチルヘキシル)、2-エチルブタン酸(1-メチルヘプチル)、2-エチルブ タン酸イソオクチル、2-エチルブタン酸イソノニル、2-エチルブタン酸(3, 5, 5-トリメチルヘキシル)、2-エチルプタン酸(2, 6-ジメチルー4-ヘプチル)、2-エチルブタン酸イソデシル、2-エチルブタン酸イソウンデシ ル、2-エチルブタン酸(n-プロピル)、2-エチルブタシ酸(n-ブチル)、 2-エチルブタン酸(n-ペンチル)、2-エチルブタン酸(n-ヘキシル)、 2-エチルブタン酸(n-ヘプチル)、2-エチルブタン酸(n-オクチル)、 10 2-エチルブタン酸(<math>n-/ニル)、2-エチルブタン酸(n-デシル)、2-エチルプタン酸 (n-ウンデシル)、2-エチルプタン酸 (n-ドデシル)、2, 3-ジメチルブタン酸イソプロピル、2,3-ジメチルブタン酸イソブチル、2, 3-ジメチルブタン酸(secープチル)、2,3-ジメチルブタン酸イソペン チル、2、3-ジメチルブタン酸シクロヘキシル、2、3-ジメチルブタン酸イ 15 ソヘプチル、2,3-ジメチルプタン酸(2-エチルヘキシル)、2,3-ジメ チルブタン酸(1-メチルヘプチル)、2、3-ジメチルプタン酸イソオクチル、 2. 3-ジメチルブタン酸イソノニル、2. 3-ジメチルプタン酸(3,5,5 ートリメチルヘキシル)、2、3-ジメチルブタン酸(2,6-ジメチルー4-ヘプチル)、2,3-ジメチルブタン酸イソデシル、2,3-ジメチルブタン酸 20 イソウンデシル、2,3-ジメチルブタン酸(n-プロピル)、2,3-ジメチ ルプタン酸 (nープチル)、2,3-ジメチルブタン酸 (nーペンチル)、2, 3-ジメチルプタン酸(n-ヘキシル)、2,3-ジメチルプタン酸(n-ヘプチル)、2、3-ジメチルブタン酸 (n-オクチル)、2、3-ジメチルブタン 酸 (n-) 二ル)、2、3ージメチルブタン酸 (n-デシル)、2、3ージメチ 25 ルプタン酸(n-ウンデシル)、2, 3-ジメチルブタン酸(n-ドデシル)、

2-メチルペンタン酸イソプロピル、2-メチルペンタン酸イソプチル、2-メ チルペンタン酸 (secーブチル)、2-メチルペンタン酸イソペンチル、2-メチルペンタン酸シクロヘキシル、2-メチルペンタン酸イソヘプチル、2-メ チルペンタン酸(2-エチルヘキシル)、2-メチルペンタン酸(1-メチルヘ プチル)、2-メチルペンタン酸イソオクチル、2-メチルペンタン酸イソノニ ル、2-メチルペンタン酸(3.5.5-トリメチルヘキシル)、2-メチルペ ンタン酸(2,6-ジメチル-4-ヘプチル)、2-メチルペンタン酸イソデシ ル、2-メチルペンタン酸イソウンデシル、2-メチルペンタン酸(n-プロピ ル)、2-メチルペンタン酸 (n-ブチル)、2-メチルペンタン酸 (n-ペン 10 チル)、2-メチルペンタン酸(n-ヘキシル)、2-メチルペンタン酸(n-ヘプチル)、2-メチルペンタン酸(n-オクチル)、2-メチルペンタン酸 (n-/ニル)、2-メチルペンタン酸(n-デシル)、2-メチルペンタン酸 (n-ウンデシル)、2-メチルペンタン酸(n-ドデシル)、2-メチルヘキ サン酸イソプロピル、2-メチルヘキサン酸イソプチル、2-メチルヘキサン酸 (sec-ブチル)、2-メチルヘキサン酸イソペンチル、2-メチルヘキサン 酸シクロヘキシル、2-メチルヘキサン酸イソヘプチル、2-メチルヘキサン酸 (2-エチルヘキシル)、2-メチルヘキサン酸(1-メチルヘプチル)、2-メチルヘキサン酸イソオクチル、2-メチルヘキサン酸イソノニル、2-メチル ヘキサン酸(3,5,5-トリメチルヘキシル)、2-メチルヘキサン酸(2. 20 6-ジメチルー4-ヘプチル)、2-メチルヘキサン酸イソデシル、2-メチル ヘキサン酸イソウンデシル、2-メチルヘキサン酸(n-プロピル)、2-メチ ルヘキサン酸 (n-ブチル)、2-メチルヘキサン酸 (n-ペンチル)、2-メ チルヘキサン酸 (n-ヘキシル)、2-メチルヘキサン酸 (n-ヘプチル)、2 メチルヘキサン酸(n-オクチル)、2-メチルヘキサン酸(n-ノニル)、

25 2-メチルヘキサン酸 (n-デシル)、2-メチルヘキサン酸 (n-ウンデシ

- ル)、2-メチルヘキサン酸 (n-ドデシル)、2-エチルペンタン酸イソプロ ピル、2-エチルペンタン酸イソブチル、2-エチルペンタン酸(sec-ブチ ル)、2-エチルペンタン酸イソペンチル、2-エチルペンタン酸シクロヘキシ ル、2-エチルペンタン酸イソヘプチル、2-エチルペンタン酸(2-エチルヘ キシル)、2-エチルペンタン酸(1-メチルヘプチル)、2-エチルペンタン 酸イソオクチル、2-エチルペンタン酸イソノニル、2-エチルペンタン酸(3, 5, 5-トリメチルヘキシル)、2-エチルペンタン酸(2, 6-ジメチルー4 -ヘプチル)、2-エチルペンタン酸イソデシル、2-エチルペンタン酸イソウ ンデシル、2-エチルペンタン酸 (n-プロピル)、2-エチルペンタン酸 (n 10 -ブチル)、2-エチルペンタン酸 (n-ペンチル)、2-エチルペンタン酸 (n-ヘキシル)、2-エチルペンタン酸(n-ヘプチル)、2-エチルペンタ ン酸 (n-オクチル)、2-エチルペンタン酸 (n-ノニル)、2-エチルペン タン酸 (n-デシル)、2-エチルペンタン酸 (n-ウンデシル)、2-エチル ペンタン酸(nードデシル)、2,4-ジメチルペンタン酸イソプロピル、2, 15 4-ジメチルペンタン酸イソブチル、2,4-ジメチルペンタン酸(sec-ブ チル)、2,4-ジメチルペンタン酸イソペンチル、2,4-ジメチルペンタン 酸シクロヘキシル、2、4ージメチルペンタン酸イソヘプチル、2、4ージメチ ルペンタン酸(2-エチルヘキシル)、2-エチルペンタン酸(1-メチルヘプ

ル)、2,4-ジメチルペンタン酸(n-オクチル)、2,4-ジメチルペンタ ン酸 (n-ノニル)、2,4-ジメチルペンタン酸(n-デシル)、2,4-ジャ メチルペンタン酸 (n – ウンデシル) 、 2 , 4 – ジメチルペンタン酸 (n – ドデ シル)、2-エチルヘキサン酸イソプロピル、2-エチルヘキサン酸イソブチル、 2-エチルヘキサン酸(sec-ブチル)、2-エチルヘキサン酸イソペンチル、 2-エチルヘキサン酸シクロヘキシル、2-エチルヘキサン酸イソヘプチル、2 - エチルヘキサン酸(2-エチルヘキシル)、2-エチルヘキサン酸(1-メチ ルヘプチル)、2-エチルヘキサン酸イソオクチル、2-エチルヘキサン酸イソ ノニル、2-エチルヘキサン酸(3,5,5-トリメチルヘキシル)、2-エチ 10 ルヘキサン酸(2,6-ジメチル-4-ヘプチル)、2-エチルヘキサン酸イソ デシル、2-エチルヘキサン酸イソウンデシル、2-エチルヘキサン酸(n-プ ロピル)、2-エチルヘキサン酸(n-ブチル)、2-エチルヘキサン酸(n-ペンチル)、2-エチルヘキサン酸(n-ヘキシル)、2-エチルヘキサン酸 (n-ヘプチル)、2-エチルヘキサン酸(n-オクチル)、2-エチルヘキサ 15 ン酸 (n-/ニル)、2-エチルヘキサン酸 (n-デシル)、2-エチルヘキサ ン酸 (n-ウンデシル)、2-エチルヘキサン酸 (n-ドデシル)、2-メチル ヘプタン酸イソプロピル、2-メチルヘプタン酸イソブチル、2-メチルヘプタ ン酸 (sec-プチル)、2-メチルヘプタン酸イソペンチル、2-メチルヘプ タン酸シクロヘキシル、2-メチルヘプタン酸イソヘプチル、2-メチルヘプタ 20 ン酸(2-エチルヘキシル)、2-メチルヘプタン酸(1-メチルヘプチル)、 2-メチルヘプタン酸イソオクチル、2-メチルヘプタン酸イソノニル、2-メ チルヘプタン酸(3,5,5-トリメチルヘキシル)、2-メチルヘプタン酸 (2.6-ジメチル-4-ヘプチル)、2-メチルヘプタン酸イソデシル、2-メチルヘプタン酸イソウンデシル、2-メチルヘプタン酸(n-プロピル)、2 25 -メチルヘプタン酸(n-ブチル)、2-メチルヘプタン酸(n-ペンチル)、

2-メチルヘプタン酸 (n-ヘキシル)、2-メチルヘプタン酸 (n-ヘプチ ル)、2 - メチルヘプタン酸(n - オクチル)、2 - メチルヘプタン酸(n - ノ ニル)、2-メチルヘプタン酸(n-デシル)、2-メチルヘプタン酸(n-ウ ンデシル)、2-メチルヘプタン酸(n-ドデシル)、2-プロピルペンタン酸 5 イソプロピル、2-プロピルペンタン酸イソプチル、2-プロピルペンタン酸 (sec-ブチル)、2-プロピルペンタン酸イソペンチル、2-プロピルペン タン酸シクロヘキシル、2-プロピルペンタン酸イソヘプチル、2-プロピルペ ンタン酸 (2-エチルヘキシル)、2-プロピルペンタン酸 (1-メチルヘプチ ル)、2-プロピルペンタン酸イソオクチル、2-プロピルペンタン酸イソノニ 10 ル、2-プロピルペンタン酸(<math>3, 5, 5-トリメチルヘキシル)、<math>2-プロピルペンタン酸(2,6-ジメチルー4-ヘプチル)、2-プロピルペンタン酸イ ソデシル、2-プロピルペンタン酸イソウンデシル、2-プロピルペンタン酸 (n-プロピル)、2-プロピルペンタン酸(n-ブチル)、2-プロピルペン タン酸 (n-ペンチル)、2-プロピルペンタン酸 (n-ヘキシル)、2-プロ 15 ピルペンタン酸 (n-ヘプチル)、2-プロピルペンタン酸 (n-オクチル)、 2-プロピルペンタン酸 (n-/ニル)、2-プロピルペンタン酸 (n-デシ ル)、2-プロピルペンタン酸(n-ウンデシル)、2-プロピルペンタン酸 (nードデシル)、2-エチルオクタン酸イソプロピル、2-エチルオクタン酸 イソプチル、2 – エチルオクタン酸 (secープチル)、2 – エチルオクタン酸 20 イソペンチル、2-エチルオクタン酸シクロヘキシル、2-エチルオクタン酸イ ソヘプチル、2-エチルオクタン酸(2-エチルヘキシル)、2-エチルオクタ ン酸(1-メチルヘプチル)、2-エチルオクタン酸イソオクチル、2-エチル オクタン酸イソノニル、2-エチルオクタン酸(3,5,5-トリメチルヘキシ ル)、2-エチルオクタン酸(2,6-ジメチル-4-ヘプチル)、2-エチル 25 オクタン酸イソデシル、2-エチルオクタン酸イソウンデシル、2-エチルオク